

今週のメニュー

トピックス

「好機を捉え、塩ビの復活・需要拡大を」
- 中原新会長 V E C 総会後の懇親会にて挨拶 -

随想

ウガンダ旅行記(3) - 商売 -

(社)日本化学工業協会 若林 康夫

編集後記

トピックス

「好機を捉え、塩ビの復活・需要拡大を」
- 中原新会長 V E C 総会後の懇親会にて挨拶 -

5月25日(火)に、塩ビ工業・環境協会第13回総会・懇親会を開催いたしました。今年度は役員の変更期にあたり、中原会長((株)トクヤマ会長) 宮島副会長(信越化学工業(株)取締役)が新しく就任いたしました。

以下に、中原新会長の懇親会での挨拶を掲載いたします。

本日は皆様ご多用中にも拘わりませず、多数ご出席を賜り、誠に有難うございます。

本日の懇親会にご列席頂いています、経済産業省製造産業局の高田化学課長様をはじめ関係官庁の皆様、塩ビ製品業界や商社の皆様、マスコミの皆様、さらには日頃より塩ビについて様々なお世話になっております皆様、平素よりV E Cの活動へのご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

先刻開催されました塩ビ工業・環境協会の第13回総会におきまして、菅原会長の後を受けまして、会長の大役を拝命したところでございます。

今年度より副会長職は一人制という新体制でスタート致しますが、幸いな事に、この度は見識、経験の豊かな信越化学工業の宮島取締役に副会長をお引き受け頂きました。力を合わせて会務に邁進致す所存でございますので、ご列席の皆様の一層のご助力、ご指導をお願いするものであります。

会長職には出戻りの身ではありますが、本業界からはここ数年遠ざかっており、少々、的外れの事を申し上げるかも知れませんが、会長をお引き受けするに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。



中原新会長



高田化学課長



宮島新副会長

さて、昨年度の塩ビの国内需要は厳しいものがありました。景気の低迷に加えて、公共工事の抑制、住宅着工戸数の大幅減少等の影響によりまして、前年度比91%の99万トンと大きく落ち込みました。然しながら年度末の1-3月は前年を上回り、底打ち感も出ております。

塩ビを取り巻く国内環境ですが、これまでのいわれ無き反塩ビの風潮がなりを潜め、塩ビ製品の環境特性を前向きに評価する報道が増えてまいりました。このような状況を受けまして、これまで使用を控えてきた需要家も、塩ビの使い易さ、性能、耐久性、コストなどを評価しており、塩ビの使用検討の為の問い合わせも増加しております。

塩ビ製品のリサイクル性や、塩ビ製窓枠を用いた樹脂窓の断熱効果と省エネ・CO₂削減性能などの環境特性が評価されている事がこれらを後押ししております。

特に樹脂窓が住宅版エコポイントの対象となり、この制度開始以降内窓が大きく伸び始めたことは、塩ビの直接の需要増だけでなく、イメージアップにも大きく寄与するものと期待しております。

平成22年度は、VECと致しまして、塩ビ製品の環境性能の検証やリサイクルの促進に継続して取り組むと共に、樹脂窓がエコポイント制度で注目されているのを好機と捉え、一般消費者に刷り込まれた塩ビの悪いイメージの改善が進むよう、様々な場を活用して働きかけを継続したいと考えております。

そこで、次の5つの重点課題に取り組みたいと思います。

塩ビ製品が地球環境に優しい有用な製品であることを伝え、塩ビのイメージアップ更には需要増に繋げる。その為の調査・広報活動等を行う。

塩ビ関連団体・企業のネットワークを構築し、塩ビ製品の復活・拡大への足がかりとする。

リサイクルビジョンに則り、関連業界と連携し、リサイクル性が塩ビ使用の障害とならないよう塩ビリサイクル技術の拡充を図る。

GVCを通してグローバルな塩ビに対する不当な規制や忌避に対応すると共に、塩ビ産業振興活動を推進する。

化学物質管理、保安問題への取り組みを、行政機関、関連諸団体等と協働し、円滑かつ効率的に進める。

これまで申し述べました活動を進める事によって、{塩ビの復活・需要拡大}を図る所存でございますが、是非とも本日ご列席の経済産業省をはじめ関係行政政府のご支援をお願いするとともに、塩ビ関連業界、塩ビ製品をご愛顧いただいておりますユ・ザ・業界、マスコミ関係各位のご支援、ご協力をお願い申し上げる次第です。

最後に、本日ご列席の各社の益々のご発展と、ご参集の皆様のご健康、ご多幸を祈念致します。私のご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。(了)

ウガンダ旅行記（3） - 商売 -

（社）日本化学工業協会 若林 康夫

走っている車のほとんどが日本製ですが、ウガンダでは数少ない信号機も日本からの援助で設置されたため、当然日本製。日本で普段見慣れた信号機がウガンダでも活躍しています。ただ、電球が切れて点灯していないものも多いようです。

信号機ではないですが、道路脇で電柱を切り倒している“植木屋さん”を見かけました。ん？ウガンダでは“植木屋さん”が電柱の撤去をするのか？と思い話を聞くと、

植木屋：「せっかく道路脇にきれいな花を植えているのにこの電柱が美観を損ねているから切り倒しているんだよ」

若 林：「なんだ、もう使われていない電柱なんだ」

植木屋：「気を付けてね。いま切った電線、電気が来てるから」

若 林：「は？この電柱、いまも使われているの？」

植木屋：「そうだよ」

若 林：「そうだよって、電柱と電線切っちゃってこの先の家に電気が行かなくなっちゃうんじゃないの？。。停電？」

植木屋：「そうかもしれないね。それは電力会社の問題だから俺たちには関係ないよ」

若 林：「。。。」

同じようなことは水道でも。

道路に水があふれ、明らかに漏水。漏水の元をたどってみると、道路脇にある洗車屋さん。道路を掘り、水道管を見つけ、ドリルでちょっとだけ穴を開ける。そこが彼らのお店になります。

こんなことをどうやって思いついたのかと聞いてみると、最初は本物の漏水があり、そこで洗車屋さんを始めたとか。しかし、漏水箇所はすぐに修理され閉店に。そこで、立地条件がよく、水道管がある場所で自ら漏水をさせて開業。

「夜、店仕舞いをするときには、ちゃんと水道管にあけた穴は塞ぐから」と穴を塞ぐのに使うネジを見せてくれました。

今回はなぜか棺桶屋さんに行く機会がありました。

ウガンダの埋葬はもちろん土葬。火葬にするのはエボラ出血熱など伝染性の病気で亡くなった時だけです。さて、棺桶屋さんでは比較的物静かであっさりしているウガンダの人とは思えないほどの強烈な売り込み。

曰く「旦那、この棺桶なんかいかがですか。いまお買い上げいただくと、亡くなるまで当店が責任を持ってお預りします」

「どうです、この彫刻。もしご希望の図柄がありましたら、日本の図柄であろうが、見本があればその通りに彫らせていただきます」

「こちらは最高級品でして、ほら、窓付き。窓の内側にはレースのカーテンもかかっていますから、普段は閉めておいて、ちょっと外の様子を見たくなった時だけ開ければいいようになっています」

どこまで本気なのかよく分からない棺桶屋さんでしたが、棺桶に窓とレースのカーテンまで付けてどうしろと。。

後で気が付いたのですが、ウガンダの平均寿命は52.72歳。50歳を超えた私を見て、もうすぐ必要だろう。棺桶を預かるといっても、ほんの数年だと思ったのでしょうか？

ウガンダで見かけた面白い商売といえば「電話屋さん」。

ウガンダでは家庭で使われている電話の形をした携帯電話があります。この携帯電話を購入し、人通りの多そうな所に机を置き、その上に携帯電話を載せればお店の出来上がり。通話量により電話会社から手数料が支払われるようです。

公衆電話もあるにはあるのですが、壊れていたり、線が切られていたり満足に使えるものがほとんどないウガンダでは結構需要があるようです。

とはいっても、電話の通話料金はそれほど高くはないので、どのくらいの収入になるのでしょうか？（つづく）



ウガンダの公衆電話
(停電が多いのでバッテリーで動かしています。)

前回のウガンダ旅行記(2) - バイクタクシー - は、下記からご覧頂けます。

http://www.vec.gr.jp/mag/265/mag_265.pdf

編集後記

協会の近くに「新亀島橋」があります。その名前の由来にもなっているのでしょうか、先日、コンクリートの護岸で「亀」が甲羅干しをしていました。この当たり前と思っていた「亀」という字が、最近話題となった追加される「常用漢字」というので、ちょっと驚きました。追加される196字を見てみると、「亀」の他にも意外と簡単な字もありますが、難しい漢字もあります。「常用漢字は別に手で書ける必要もなく、それを求めるものでもない」とのことです。新聞では、分かりやすい、読みやすい漢字を使うのだそうですが、メルマガでも、業界用語がでてくることから編集会議では、「ルビをふるかどうか」時々議論になったりします。(HI)

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)、[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601 FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp> E-MAIL info@vec.gr.jp